

問 「チーム白馬」への考えは

答 組織化し住民の声を行政運営に活かす



太田修議員

【村長施策と今後の取り組みについて】

問 観光と農業の活性化及び人口維持の対応策は。

村長 国は農業競争力を図り、生産コストを4割削減し所得を倍増する考えを示したが、米の値段は予想以上に下落しました。村は生産性の向上や耕作放棄地解消に向け、圃場整備の推進と特産品化や6次産業化に取り組み農家・法人を支援し、観光振興、地域の活性化で雇用創出に努めます。

問 「チーム白馬」の考えは。

村長 企画部門を中心に、村民から意見の対応や庁内を横断的に対応できる体制を整え、村民への情報発信に努めます。

副村長 「チーム白馬」は問題解決に向け、テーマ毎に有識者や担当職員を中心に検討します。

問 庁舎の老朽化対策と今後の計画は。

村長 築30年が経過することから、耐震補強に伴う実施設計の入札を行い、業者と契約しました。来年度は中規模改修工事を予定しており、庁舎内で検討中です。

問 水道施設の維持管理と今後の更新計画は。

村長 耐用年数は40年で、水道管路の延長は約200kmで、40年を経過する管は約24kmです。多額な費用が必要であり、資金確保を含め検討します。

問 職員数及び事務量や年齢層別職員数のバランスは。また専門職の採用は。

村長 条例による職員定数115人に対し86人で、不足する業務には嘱託・臨時職員で対応しています。また、若年層の職員が少なく、

今後人事評価制度にあわせ業務内容、年間事務量、知識・判断力等を把握し、人材適正配置の実現に努めます。また、専門職員の補充も進めます。

問 ヤフーと連携で、ふるさと納税は。

村長 ヤフーポータルサイトを利用し、クレジット決済や、白馬ならではのスキーリゾート券や、宿泊施設利用でのポイント付与等を検討中です。

【防災計画・避難訓練等の改善策について】

問 直近の災害実情等を踏まえた見直しと改善策は。

村長 国の避難勧告等の判断や伝達マニュアル作成ガイドラインに、避難は災害から命を守るための行動と定義づけています。1〜2年を目途に見直しを行い、当面は空振りを恐れず早目に避難勧告を出すことを基本にします。

問 有事の際、夜間や休祝日での連絡先は。

総務課長 基本は役場で、初動体制は職員5名の4班制で対応します。

問 初動マニュアルで、災害本部の立上げまでに要する時間は。

総務課長 状況等により異なり、予測は困難です。

問 地区自主防災組織と連携できる組織づくりは。

村長 県や村の対応だけでは限界があり、早期の対策が困難な場合があります。自分の



防災体制は万全か

身は自分で守るとともに、近隣の人達による助け合いで防災活動を組織的に取り組み、災害の軽減を図ることが必要と考えます。

問 地区単位での避難訓練は。

村長 10月19日に秋季火災予防訓練と消防団の協力で多目的研修集会施設で実施します。この訓練で地域住民が一体となって安全・安心な地域づくりを目指し、地域防災力を図ります。